

白山道（シヤドリ）は、嘉元 3 年（1305）、金沢貞顕が瀬戸橋を架けるまで、保土ヶ谷道の道標から左へ藤坂（谷津浅間神社下）を通り、鎌倉へ向かう道でした。称名寺と鎌倉を結ぶ幹線道路であったといわれています。

手子神社

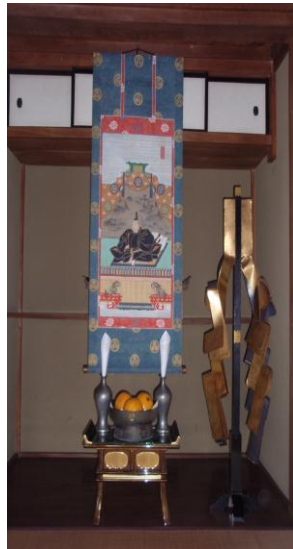
釜利谷の領主伊丹左京亮が文明 5 年（1473）瀬戸神社の分霊を祀ったのが起源です。祭神は大山祇命（オヤマミコト）。創建当時は宮ヶ谷にありましたが、延宝 7 年（1679）伊丹左京亮の末裔・江戸浅草寺の智楽院忠運が現在地に再建しました。釜利谷（赤井・宿・坂本）の総鎮守として信仰を集めています。

竹生島弁財天と小泉夜雨

手子神社の東側の地が小泉（コノイ）です。昔はこの辺りまで内海が入り込んでいて、その汀に竹生島と呼ばれる小さな岩山がありました。そこに大きな笠松があり、晴天の夜でも梢から雫を落としていたと伝わっています。『小泉夜雨』の起源で、金沢八景の一つです。その松の根元の石窟に竹生島弁財天が祀られていました。現在は手子神社の境内に遷され、宇賀弁財天が祀られています。最初に祀られていた「瀟湘夜雨弁財天」は禅林寺に伝えられています。

禅林寺

竹嵩山。曹洞宗。本尊は薬師瑠璃光如来。足利持氏が創建し、その息子足利成氏に要請で、明應 2 年（1493）に下総東昌寺二世能山聚藝禅師が開山したと伝えられています。その後、伊丹三河守永親が再興しました。伊丹氏一族との関係で坂本村が江戸城内の紅葉山東照宮領となり、安永 9 年（1780）に東照大権現（徳川家康）の御神影が下賜されました。毎年家康の命日の 4 月 17 日に一般公開されます。



東照大権現の御神影

自性院

福松山慈眼寺。真言宗御室派。本尊は聖観世音菩薩。寺伝によると伊丹三河守が二人の子供の菩提を弔うため、永正年間（1504～20）に創建したとのこと。寛永 11 年（1634）、当時幕府御用の菓子商大久保主水忠行の夫人蓮臺院日宝尼が建てたといわれる宇賀山王社が本堂右側の山際に祀られています。

六郎橋と畠山重保公五輪塔

宮川右支流は暗渠になってしまいましたが、六郎橋の一部は残されています。畠山重忠の子の六郎重保に因んで付けられたと伝わっています。白山道隧道近くの六郎ヶ谷公園の奥に畠山六郎重保公廟所があります。

東光禅寺

白山。臨済宗建長寺派。本尊は薬師如来（畠山重忠の持仏と伝わっています）。寺の前身は、建仁年間（1201～04）に鎌倉の薬師ヶ谷（現鎌倉宮辺り）に畠山重忠が創建したと伝わる医王山東光寺とされています。弘安 5 年（1282）に建長寺第六世大興禅師が釜利谷白山道に白山東光寺を開山しました。東光寺は、関東大震災での倒壊後、現在地に再建され、のちに東光禅寺となりました。寺宝として重忠が愛用したと伝えられる馬具（鞍・鐙・轡）があります。



東光禅寺 畠山重忠公供養塔

白山社

崖を掘りぬいた「やぐら」の中に、古社が祀られています。これが白山社（ハクサンヤ）で白山権現社とも呼ばれています。祭神は白山比咩神（シヤマヒメミ・別名クワヒメ）。この白山社が「白山道（シヤドリ）」の名の由来だといわれています。

白山道奥磨崖仏

白山道の右側奥の崖の中腹に大きな仏像が彫り込まれています。磨崖仏で、顔の長さは約 4m あります。東光禅寺と関連があり、薬師如来といわれてきましたが史料がなく詳細は不明です。

釜利谷やぐら遺跡・11 号やぐら

「やぐら」とは、鎌倉・室町時代の納骨や供養のために方形に掘られた武士や僧侶たちの墓で、鎌倉やその周辺の山腹に多く見られます。

宅地造成に先立つ昭和 61 年（1986）6 月～昭和 62 年（1987）7 月にかけて発掘調査が行われ、9 基のやぐらと鎌倉古道の一つである白山道の尾根道が 3 筋発見されました。

その一部の約 70 m が保存されています。

鼻欠地藏

朝比奈と大道の境にある磨崖仏。鼻の先が欠けていたので鼻欠地藏と呼ばれていました。また、武蔵と相模の国境にあったので「界（カキ）の地藏」とも呼ばれていました。